

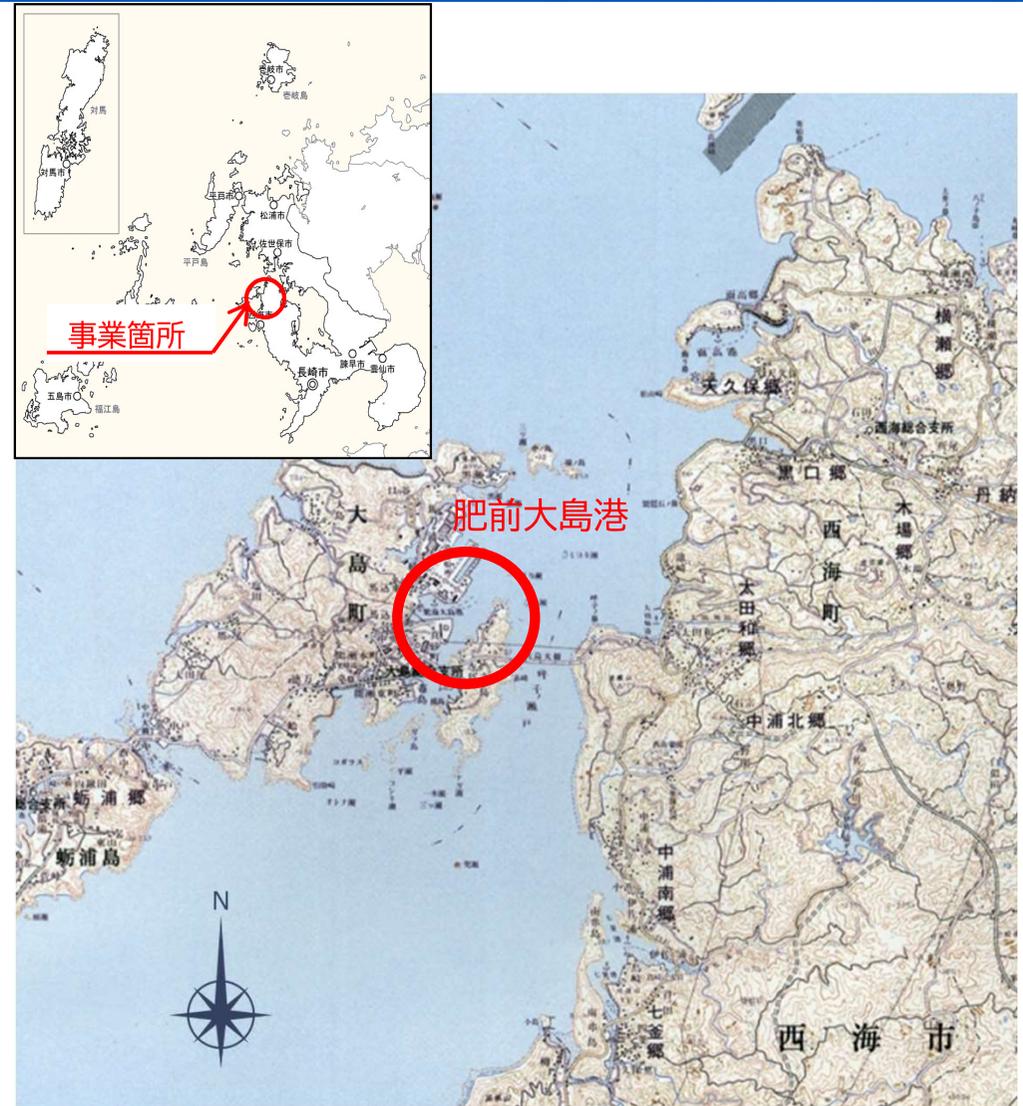
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

事後評価対象事業

港湾 - 1 港湾改修事業
肥前大島港

事業主体 長崎県

事後評価
の理由 再評価実施
全体事業費 10億円以上
事業完了後 5年経過



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H9新規)	-	H10	H22	38.6	-	【工事概要】 防波堤 100m 岸壁(-7.5m) 130m 護岸(防波) 75m 道路(B) 6m×1,430m 泊地(-7.5m) 18,680m ² 心頭用地 6,300m ²
第1回審議 (H19年度)	事業採択後 10年経過	H10	H22	38.6	1.23	【当初からの変更概要】 ・なし
第2回審議 (H24年度)	再評価後 5年経過	H10	H25	38.4	1.12	【前回からの変更概要】 ・用地買収難航による工期延長
第3回審議 (H26年度)	社会経済 情勢の変化	H10	H32	75.4	1.54	【前回からの変更概要】 ・背後企業等からの要請により、船舶大型化への対応や荷役効率化を図るため、馬込地区・真砂地区における整備を追加 【変更工事概要】 ○寺島地区 防波堤 100m 護岸(防波) 75m 泊地(-7.5m) 18,680m ² 岸壁(-7.5m) 130m 道路(B) 6m×1,340m 心頭用地 6,600m ² ○馬込地区 岸壁(-7.5m) 130m 岸壁(-4.5m) 80m 道路 6m×420m 心頭用地 3,500m ² ○真砂地区 泊地(-4.0m) 4,000m ² 浮棧橋(移設) 1基
第4回審議 (R1年度)	再評価後 5年経過	H10	R2	75.4	2.02	【前回からの変更概要】 ・寺島地区の取扱貨物量増によるB/Cの増

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第5回審議 (R7年度)	(事後評価) 再評価実施 事業完了後 5年経過	H10	R2	75.4	1.41	【工事概要】 ○寺島地区 防波堤 100m 護岸(防波) 75m 泊地(-7.5m) 18,680m ² 岸壁(-7.5m) 130m 道路(B) 6m×1,340m 心頭用地 6,600m ² ○馬込地区 岸壁(-7.5m) 130m 岸壁(-4.5m) 80m 道路 6m×420m 心頭用地 3,500m ² ○真砂地区 泊地(-4.0m) 4,000m ² 浮棧橋(移設) 1基

2. 目的・事業概要・事業経過

◆目的

既存施設の能力不足を解消し、物流の効率化支援並びに係留施設の増深により輸送コストの削減を図る。このことにより、地域の基幹産業を支援し、地域経済の発展に寄与することを目的としている。

◆事業概要

〈寺島地区〉

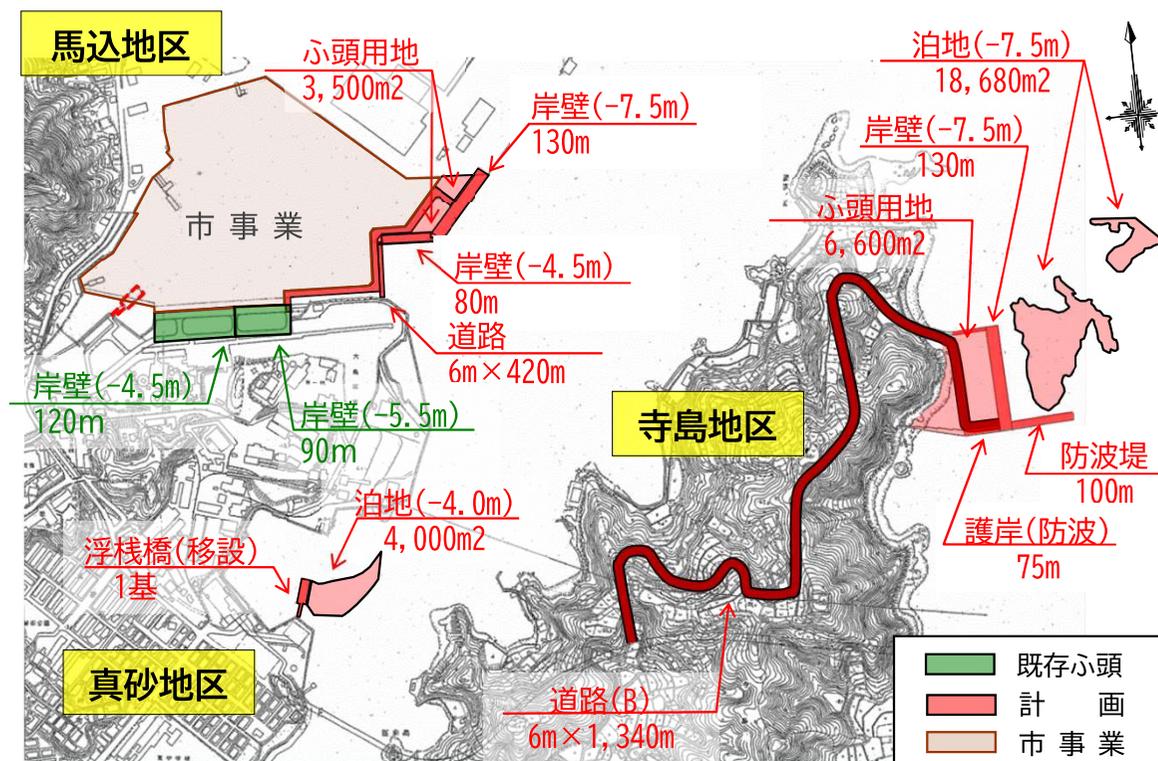
防波堤	100m
護岸(防波)	75m
泊地(-7.5m)	18,680m ²
岸壁(-7.5m)	130m
道路(B)	6×1,340m
心頭用地	6,600m ²

〈馬込地区〉

岸壁(-7.5m)	130m
岸壁(-4.5m)	80m
道路	6×420m
心頭用地	3,500m ²

〈真砂地区〉

泊地(-4.0m)	4,000m ²
浮棧橋(移設)	1基



▼事業経過

平成10年度	事業化、寺島地区 工事着手
平成25年度	寺島地区 岸壁及び心頭供用開始
平成27年度	寺島地区 道路(B) 供用開始
	馬込・真砂地区 工事着手
平成30年度	真砂地区 工事完成
令和2年度	馬込地区 工事完成

3-1. 事業効果の発現状況（馬込地区）

○事業効果の発現状況

- ・造船関連企業の進出（拡張）による鋼材等取扱量の増加に対応すべく、新たに岸壁（-7.5m）を整備し、既存岸壁（-4.5m）からシフトすることで、船舶大型化に対応し、物流の効率化が図られた。

整備前

水深不足により大型船舶接岸不可

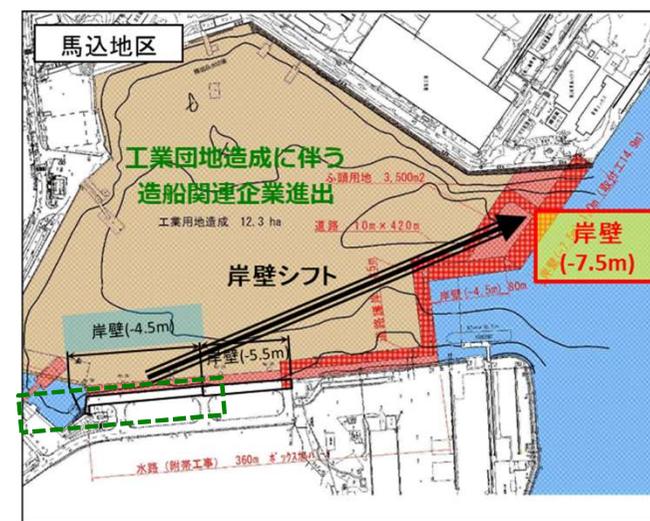
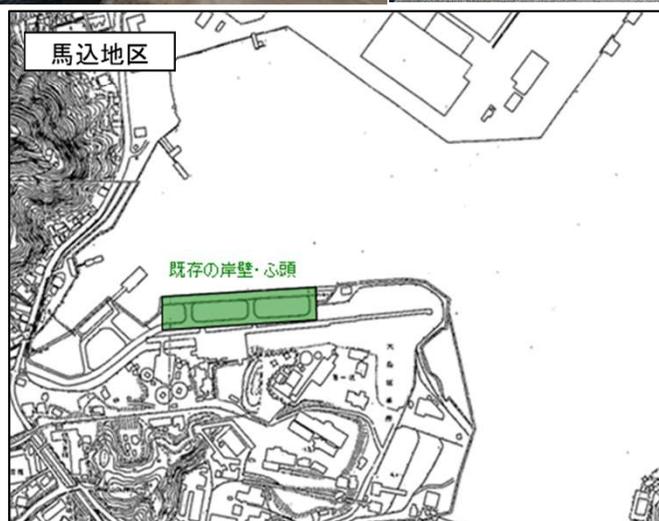


既存岸壁の著しい老朽化



整備後

新岸壁整備により必要水深を確保
大型船舶の接岸が可能となった



3-2. 事業効果の発現状況（寺島地区）

○事業効果の発現状況

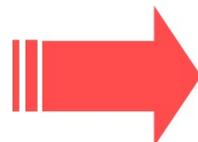
- ・狭い用地で建設資材（砂・砂利）と鋼材貨物を取扱っており、非効率な荷役作業を強いられていたため、寺島地区に新たに砂・砂利を取扱う岸壁を整備し、港内の作業効率化を図った。

整備前

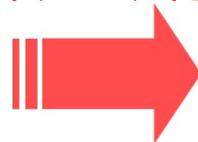
鋼材と建設資材(砂・砂利)の仮置き状況



鋼材



建設資材
(砂・砂利)



整備後

馬込地区 岸壁(-7.5m)利用状況



鋼材 積出状況



寺島地区 岸壁(-7.5m)利用状況



砂・砂利 積込状況



整備前は馬込地区で鋼材と砂・砂利の取扱いが重複しており、非効率な荷役作業を強いられていた

馬込地区で鋼材、寺島地区で砂・砂利の岸壁が整備されたことにより、貨物のすみ分けが可能となり、港内の作業効率化が図られた

4. 費用対効果の算定の基礎となった要因の変化

◆総事業費 : 75.4億円 (前回) → 75.4億円 (変更なし)

◆完了年度 : R2 (前回) → R2 (変更なし)

◆費用対効果 (B/C)

項目	前回 (再評価) (令和元年度)	今回 (事後評価) (令和7年度)
全事業	2.02 = 244億円 / 121億円	1.41 = 266億円 / 188億円

[費用対効果が増加した要因 (マイナス要因)]

- ・取扱貨物量の減

5. 社会経済情勢等の変化

港湾利用者や地域住民へヒアリングした結果、港湾施設が改善された効果を実感していることを確認している。



造船業者

整備後は水深の制限なく大型船（3,000T以上）での輸出が容易になった。おかげで1回の鋼材取扱量も増え効率的な輸送が可能となった。



砂・砂利業者

岸壁が整備される前は他地区で砂・砂利を取扱っていたが、水深が浅く、大型船舶が係船できなかつた。民家が近く砂埃による苦情もあったが、岸壁が整備されたことで解消された。



地域住民

地元の港が整備されて、造船会社の拡張が進むと聞いている。今後ますます町に活気が出ることを期待

6. 対応方針（原案）

○今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性

事業実施により、大型船舶の係船が可能となると同時に取扱い貨物のすみ分けがなされ、作業の効率化が図られるなど事業の効果がみられる。今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性はないと判断している。

○同種事業の計画・調査のあり方等

本事業の見直しの必要性はないが、今後の同種事業においては、関係機関と連携し適切な事業管理に努め、事業効果が早期に発現されるよう早期完成に努める。